

## 平成29年度 社会科巡検 報告

1. 期日 平成29年8月22日～23日

2. 場所 秋田県仙北市

3. 日程

### 【8月22日】

- 7:50 大学集合
- 8:00 大学出発
- 9:30 クニマス未来館見学
- 11:30 昼食
- 13:00 玉川ダムへ移動
- 14:00 玉川ダム見学(60分)  
(資料室→取水ゲート→ゲートハウス→エレベーター→ダム内→108段階→下流公園)
- 15:00 中和処理施設へ移動
- 15:30 玉川酸性水中和処理施設見学(30分)
- 16:00 田沢湖出発
- 17:00 かくのだて温泉着
- 18:00 宴会 \*なるほど(宿から徒歩2分)にて

### 【8月23日】

- 8:00 朝食\*土間人(宿隣)にて
- 9:30 外町見学(90分)\*仙北市総合情報センター前(宿から徒歩3分)にて待ち合わせ
- 11:30 内町見学(90分)
- 13:00 昼食
- 14:15 榊細工伝承館見学(45分)
- 15:00 榊細工工作体験(120分)
- 17:00 角館出発
- 18:00 大学着・解散

4. 参加者

教員： 外池智 加納隆徳

学生： 遠藤わかな 小笹直也 佐川祐麻 庄司航 鈴木隆大  
永江甲斐 西田あき子 濱田風香 宮崎颯太

# クニマスについて

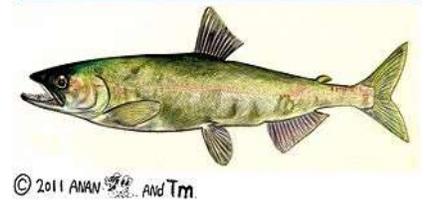
遠藤わかな、小笹直也

## ○クニマスとは

クニマスは秋田県仙北市の田沢湖にいた淡水魚の固有種である。ベニザケが田沢湖という特殊な環境に適応してできたのがクニマスであるという。伝承等によると普段は田沢湖の水深 100~300 メートル付近の深部に生息し、岩に付着した藻類やプランクトンを餌としていたと考えられている。産卵は1~3月を盛期に水深 40~50 メートルの浅いところで行われていたのではないかと報告されている。

昭和期の記録では「遊泳甚だ活潑（活発）ならず」との記録があり、泳ぎはさほど早くない。実際に「再発見」後には水底でゆっくりと泳ぎ、さらに湖の底に留まり、休息する姿も観察されている。これは、元来の生息地である田沢湖においてクニマスの生存を脅かす肉食魚類等の天敵が棲息しなかったことと、西湖においてはブラックバス等の肉食魚との生息領域が重ならなかったことが原因と考えられている。

西湖のクニマス発見者の一人さかなクンによるイラスト



## ○田沢湖の環境

田沢湖は日本で最も深い湖（425m）であり、国内で19番目に広い湖沼（22.5 km<sup>2</sup>）である。貧栄養湖であるため水の透明度が高い。そのため飼料環境としてはきわめて貧しいが、湖畔に茂った木から落ちたり、川から流されてくる陸生昆虫や魚類の雑魚などを餌にしたりしていたと考えられている。また水深が深く水容量が大きいなど、生息場所としては安定した環境を提供していた。しかし、強酸性の温泉排水が流れる玉川の水を、発電のため田沢湖へ導入したため、田沢湖の魚類はほぼ生存不可能となった。

## ○クニマスの絶滅

1940年、電力供給増加のために田沢湖の湖水を利用した水力発電所（生保内<sup>おぼない</sup>発電所）が建設された。田沢湖から流出する湖水を賄うため、1940年1月20日から玉川の水を導入したが、玉川毒水と呼ばれる塩酸を含む強酸性の水が大量に流入したため、1948年の調査では表層付近のpHが4.8前後と急速に



酸性化し、同年にはクニマスの捕獲数はほぼゼロになり絶滅が確認され

た。環境省のレッドリストでは、「絶滅」と評価されていたが2010年に京都大学研究チームの調査により、山梨県の西湖で現在個体群の生息が確認され、野生絶滅に指定変更された。

【参考文献】『まぼろしの魚「クニマス百科」』

# 玉川ダムについて

永江甲斐

## 1・ダムの役割について

水をためておくと・・・

- ・水の量を調整できるため美しい景色を守ることができる。
- ・水の量を調整できるため農業で活躍している。
- ・水をたくさんためておけるため我々の生活に必要な水を確保している。

## 2・玉川ダムの活躍

- ・防災面：玉川ダムがあるため水量の調整ができて安定した水位を保っている。もし玉川ダムがなかったら70cmも水位が上昇し家屋が浸水してしまう。
- ・環境面：田沢湖はダムと連携しているため湖の水位は調整され景観を美しく保っている。玉川酸性水中和処理施設としても活躍している。つまり玉川の水質を改善し、魚が生きることができ、稲作につかえ、我々の日常生活にも使える水にするということである。その背景にはかつて玉川ダム源流部に玉川温泉と新玉川温泉を有しており、その温泉から強酸性の水が流出していた。河水に魚介類が全く存在せず、稲作にもその水が使えなかったため玉川毒水とも呼ばれていた。
- ・生活面：安定した水を供給できるので降水量の低い季節でも作物を作れる。また、秋田市約30万人の水道用水を供給している。

## 3・玉川ダムとは

- ・秋田県仙北市にあり1973年に完成。
- ・雄物川水系にあるダムの中では最大規模で高さは約100mもある。
- ・水力発電や秋田市への利水、玉川の水質改善などの多目的ダム。
- ・重力式コンクリートダムというダム形式の1種であり、地震、洪水に最も強い形式であるため降る水量や地震の多い日本に適したダムである。



# 角館武家屋敷

濱田風香、鈴木隆大

## 〈概要〉

- ・佐竹義隣<sup>1</sup>の実父は京の公家・高倉家の高倉永慶であり、義隣は高倉家からの養子である（母が佐竹家の娘）。また、2代佐竹義明も公家・三条西家一門である西郊家の西郊実号の娘を正室に迎えた事から角館には多くの京文化が移入された。「みちのく小京都」とも呼ばれる由縁。
- ・関ヶ原の戦いののち、佐竹氏が秋田へと入部し、久保田藩領となる。
- ・佐竹義宜の実弟蘆名義広が所預として角館に入る。
- ・蘆名氏の入部当時、角館の城下町は角館城の築かれていた小松山（現古城山）の北側の麓にあったが、狭隘な上に、水害や火災にしばしば見舞われたことから、1620年（元和6年）、現在の位置である古城山の南麓へ町を移転させた。
- ・現在も当時の街並みを残しており、防衛を考慮したクランク形の道路などが見られる。



## ◎外町（とまち）

「外町（とまち）」は、武家屋敷が立ち並ぶ「内町（うちまち）」と対照的に、商家などの町並みが続き、歴史を感じさせる。古い建物や土蔵も数多く残り、現代もこの空間を大切にしながら、店舗やレストランなどに活かしている。



## ◎内町（うちまち）

元和6年（1620）江戸時代のはじめ、芦名氏により大規模な都市計画が実施され、その後は佐竹北家の城下町として栄えた角館。武家屋敷が立ち並ぶ通りは、「内町（うちまち）」と呼ばれ、現在も江戸時代末期時の屋敷割や、母屋・門・蔵の屋敷構え、枡型など武家町の特徴をよく残している。

### ・石黒家

佐竹北家の用人を勤めた家柄で、財用勘定といった財政面の役職についていた。正玄関と脇玄関が

あり、二つの玄関を持つのは身分の高い武士の家だった。

#### ・青柳家

代々の役職は納戸役を多く勤め、実禄は 104 石。高い格式を誇っていた。母屋は寄棟萱葺き屋根の鍵屋で、座敷は現存する角館の武家屋敷のなかで最も豪華。

#### ・岩橋家

しばしば多くの家屋が火災で焼失したが、東勝楽町で焼失を免れたのが岩橋家と河原田家。もとは萱葺きだったが、明治 30 年頃に木羽葺きに替えたおかげで、大火でも焼けなかったといわれている。

#### ・河原田家

後に電気事業の草分けとなり、薬医門<sup>2</sup>の表札の下に「電話一番」の古びた札がかかっている。現在の建物は明治中期に建てられたものだが、その間取りは武家住宅の形式を踏襲していて、屋敷の構成は藩政時代そのもの。

#### ・小田野家

「秋田蘭画」<sup>3</sup>で有名な小田野直武がでた。玄関は一般の通用口と正式のものを一緒に使い、玄関土間の上がりカマチで身分を区分するという中級武士の屋敷の造り。明治 33 年の大火で小田野家は類焼しており、現在の家屋は火災後に建てられたもの。

#### ・松本家

松本家は、学者の家系。郷校弘道書院の教授の須藤半五郎は当家の出で、「烏帽子於也」の著者として知られている。家屋は幕末の頃に建築されたもので、県内の近世下級武士住宅として唯一のもの。

この武家屋敷群の表通りは、国の重要伝統的建造物群保存地区の指定を受けており、文化財として保護されている。

〈注〉

<sup>1</sup>佐竹義隣(よしちか)

佐竹氏一門の佐竹北家第 8 代当主で佐竹北家角館初代所預。

<sup>2</sup>薬医門

2 本の本柱の背後だけに控え柱を立て、切妻屋根をかけた門。

<sup>3</sup>秋田蘭画

江戸時代における絵画のジャンルのひとつで、久保田藩（秋田藩）主や藩士を担い手とした、西洋画の手法を取り入れた構図と純日本的な画材を使用した和洋折衷絵画。

〈参照 URL〉

- [http://www.ltd.co.jp/kakunodate/street/2\\_2.html](http://www.ltd.co.jp/kakunodate/street/2_2.html)
- <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%A7%92%E9%A4%A8>
- <https://kotobank.jp/word/%E8%96%AC%E5%8C%BB%E9%96%80-647789>
- <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%A7%8B%E7%94%B0%E8%98%AD%E7%94%BB>
- <http://kakunodate-kanko.jp/tomachi.html>
- <http://kakunodate-kanko.jp/uchimachi.html>

# 角館の祭り

船木輝寿

毎年9月7日、8日、9日の3日間、角館では国指定重要無形民俗文化財に指定されている「角館祭りのやま行事」が行われます。

角館の“お祭り”には、神を待ち、神をいただくという素朴な信仰が色濃く残っています。さらに、若者の力の極限まで出しきる壮烈な激突などまさに日本の祭りの原点があります。この祭りは若者が曳山を引いて町内を練り歩き、曳山同士が出会ったときにどちらが先行するかの交渉が決裂すると力の限り曳山をぶつけ合います。一方で飾山（おやま）ばやしに合わせたの優雅な踊りと飾られた豪華な人形も楽しめる、美しさと勇壮さをあわせもつお祭りです。<http://www.city.semboku.akita.jp/event/event.php?id=748>  
<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%A7%92%E9%A4%A8%E3%81%AE%E3%81%8A%E7%A5%AD%E3%82%8A>より引用



角館には他にも祭りがあります。毎年8月15日送り盆の時期に行われる「角館のささら舞」です。四百年以上の歴史を今に伝えるささらは獅子舞の

この地方での呼び名で、「ささら」という木製の楽器を鳴らしながら踊ることから「ささら舞」と呼ばれています。400年前、佐竹氏の国替えの時に行列の先頭に立って悪霊退散のために行ったものが始まりとなっています。今日ではお盆の行事として豊作や無病息災を願うために舞われています。

また、角館には夏の祭りだけでなく、冬の祭りもあります。

冬の祭りには毎年2月13日、14日に行われる「角館の火振りかまくら」があります。「角館の火振りかまくら」は宮中行事の左義長の名残を伝え、佐竹北家時代から行われてきた小正月の伝統行事です。雪で作ったかまどの中でおこした火を1.5メートルほどの縄の先に結えた俵につけて円形を描くように振り回し、火で身体を清めながら無病息災や家内安全を祈ります。雪の中に華麗な火の輪が踊る幻想的な行事です。主会場をはじめとして町内ごとに開催されます。

角館の祭りの多くは国指定重要無形民俗文化財・ユネスコ無形文化遺産、市指定無形民俗文化財などに指定されています。1回は角館を訪れて祭りを見ることをお勧めします！

[http://www.city.semboku.akita.jp/sightseeing/spot/07\\_hiburi.html](http://www.city.semboku.akita.jp/sightseeing/spot/07_hiburi.html)より引用

<http://kakunodate-kanko.jp/traditional-event.html>より引用



# 樺細工について知ろう！

庄司航

## 1. 樺細工とは？

秋田県仙北市で生産されており、ヤマザクラ類の樹皮を用いて作られる工芸品である。独特の技法によってヤマザクラの樹皮特有の光沢を生かした、渋くて奥深い色合いが特徴で名実ともに国の伝統的工芸品に指定され、広く愛用されている。代表的な製品に茶筒や茶櫃などのお茶道具類や文箱、ブローチ・タイピンなどがある。

## 2. 樺細工の歴史

角館の樺細工は、江戸時代の天明年間(1781~1789)にかけて佐竹北家の手判役、藤村彦六によって御処野家(現在の合川町鎌沢)から伝授されたことから始まる。藩政期は藩主の手厚い庇護の元下級武士の手内職であった。

明治以降は、有力な問屋の出現で樺細工の安定した産業へと成長した。特に長松谷商店は販路拡張、製品の大量生産化、工具の改良などで産業が底上げされた。また職人育成にも力があり、経徳斐太郎、黒沢清太などは、その後の時代に影響を与え、「木地もの」という技法を確立した。

大正期以降は名工「小野東三」が時代をリードした。特に昭和17年からの3年間、柳宗悦らの指導のもと、優秀な弟子たちと臨んだ日本民芸館における伝習館での成果は、今日の樺細工の礎を築いた。

## 3. 角館の樺細工の工芸法

### i) 型もの



木型に合わせて芯をつくり、その上に樺を貼り付けて筒状のものを作る工法。

### ii) 木地もの



明治30年代から始まり下地に木地を用いており、箱物が多く作られる。

### iii) たたみもの



磨いたヤマザクラの樹皮を数十枚も重ね貼りし、厚くしたものを、様々な形に彫刻する工法。